

2018年度（平成30年度） OB総会 結果まとめ

日時 平成30年6月9日（土）14時30分～16時40分

場所 青山学院大学青山キャンパス 17号館406号教室

出席

出席者

OB会長と幹事会とHCで、計7名。OBは、計17名。現役幹部は、計5名。総計29名。

【結果】

提案された決議につき、OB会則14条の議決条件を充足するものとし全て承認された。

【経緯等】

- ・本総会は青山学院大学男子ラグロス部OB会の①前年度活動報告②前年度決算報告③今年度活動計画④今年度予算報告⑤今年度組織体制をOB会会員に共有することを目的として2017年度（平成29年度）からOB幹事会が設置。
- ・従来、OB向けにOB会の活動報告を行う機会が無かったため12月に行う総会は現役部員による学生向けの活動報告として位置づけ、6月に行うOB総会はOBによるOB向けの活動報告として位置づける。

【議案別 要点・コメント】

1. 2017年度活動実績／2018年度活動計画 竹花氏（OB会幹事長 2期）

- 一部リーグに恒常的に定着しているチームと青山学院大学ラグロス部（以下、青学ラグロス部）を比較した際に、体系だった教育体制やノウハウを継続するといった組織体制に違いがあると思う。我々OB幹事会は強い組織体制を作るために会則の規定をはじめ資金援助のためのお金の管理、OB会会員名簿の作成、管理などを行っている。今回、このように皆さまにお集まりいただいたのもOB会の活動報告や活動計画を皆さまとの共有、理解を通じて青学ラグロス部に積極的に支援をいただきたいからである。また、OB幹事会という組織は会員の上の立場にいるのではなく、OBの皆さまと相互関係であるということを理解していただきたい。そして、本日も説明させて頂く内容を腹に落してもらい協賛金を支援頂きたい。
- 協賛金について各代にばらつきがあるので、いかに支援の輪を広げていくことが重要だと思う。青学ラグロス部に再び興味を持ってもらえるように、ラグロスから遠ざかっている人に対して青学ラグロス部に戻りやすい環境作りを行っている。例えば、就活支援制度や産業勉強会は現役部員との接点となっている。このように単に資金援助や会議への出席だけでなく、それぞれの形で青学ラグロス部に支援をいただければと思う。

2. 活動報告

① 体育会 OBOG 連合会の活動 中村渉外グループリーダー (17 期)

- 渉外グループからの活動報告。中村氏は昨年度、OBOG 連合会（青山学院大学体育会 44 部活の OBOG の各代表が運営する組織）の副幹事長として活動。具体的な活動内容は以下のとおり。
 - 年 13 回開催される幹事会の参加
⇒OBOG 連合会主催のイベントの企画、運営に関する事項について会議に参加した。
 - OBOG 連合会総会への参加
⇒年 1 開催される総会に今年度は温湯 OB 会長（1 期主将）と参加した。連合会の方針はラクロス部 OB 会の年度方針にも反映している。
 - コーチズセッションの運営
⇒現役員や体育会に携わるコーチに向けての講演会を企画。昨年度は、大学スポーツ支援課の取り組みや陸上部長距離ブロックの原監督による講演を実施した。2018 年度も同様に開催していくので参加をお願いしたい。
 - その他、体育会優秀学生および団体の表彰式の運営、体育会就活セミナーの運営
- 今年度、新たな取り組みとして体育会協会の設立に向けた委員会を発足（中村氏は 7 名の委員会メンバーの 1 人）。学生および体育会に対して何が貢献できるかを検討していくとのこと。

② 産業勉強会・就活支援 江幡総務グループリーダー (12 期)

- 総務グループからの活動報告。活動内容は以下のとおり。
 - 産業勉強会について。詳細は配布資料のとおり。
※補足として、第 1 回は、飯田橋の外部施設を利用したため場所代が発生し、第 2 回は講師の会議室を無償利用、第 3 回は青山キャンパス無償利用となっており、第 3 回に至っては、11,800 円を OB 会に寄付しており、この産業勉強会は、実は収益を産み出す構造になっている。ただし、初の試みということもあり、かかる可能性のある費用は、予算化していることをご理解頂きたい。
現役生は多くの OB との出会いを楽しみにしているため、次回、7 月 12 日@青山キャンパスで予定している、4 期主将で LAX 日本代表の浅原さんの金融業に関する産業勉強会にご出席頂きたい。(12 期江幡氏)
 - 就活支援メンター制度 (ABM) 発足について。詳細は配布資料のとおり。
※補足として、組織的な就活支援については、産業勉強会に参加頂いた現役生に対するアンケートから支援内容は様々だが全員より、要望があったため 3 月

26 日本制度を発足するに至った。実際にこの本制度を利用した現役生の複数名は志望企業より内定を取得し、就活を終えている状況。明らかに現役生に役立つ制度であると考ええる。(江幡氏)

⇒現役部員から OB 訪問したいという意見が多数上がっており、OB 訪問の受け入れる仕組み作りを検討することやOB 訪問を積極的に受け入れていただきたい。

③ 現役チーム戦績・活動状況 関口ヘッドコーチ (16 期)

- 昨年度の現役部員の実績について報告。内容は以下のとおり。
 - 昨年度のリーグ戦戦績は 2 勝 3 敗。三部入れ替え戦で明星大学と戦い、7 対 6 で勝利。二部残留という結果となった。
 - 現在、男子部員数は 108 名。部員増加に伴って全員で練習できるグラウンドが確保しづらくなっている。グラウンドを複数借りるため数年前と比べてグラウンド代金が 2～3 倍に膨れ上がっている。
 - 今年度のチームスローガンは「All Box Member」。選手、MG、関係者の皆さまが一体となって戦っていく姿勢を表している。試合に足を運ぶなど些細なことで構わないので OB の皆さまには積極的にご関与いただきたい。

④ 会計報告 加藤会計グループリーダー (11 期)

- 昨年度予算および今年度予算について報告。内容は以下のとおり。
 - 昨年度予算の考え方と実績は配布資料 (p 2～p 5) のとおり。
 - 今年度予算の考え方と予算案は配布資料 (p 7～p 9) のとおり。
- ⇒今年度の予算案ではコーチの活動費の項目を追加している。活動費が無いとコーチの人材確保が難しくなると考えている。
- ⇒予算時に勘案していなかった費用について予算枠を設けたい。例えば日本代表選手の選出の際には、即座にサポートできるようにその予算枠から支援金を提供したいと考えている。

3. 会計監査

- 17 年度は会計監査不在であったため、代理として温湯 OB 会長から昨年度会計実績について問題ない旨報告があった。

4. 会則改訂

- 第 1 条を改訂。新たに英語表記を盛り込んだ。「青山学院大学体育会ラクロス部 OB(OG)会 Aoyama Gakuin University Lacrosse club Alumni (略称:AGULAX-A)」と称する。

- 第8条を改訂。「卒業後3年間は年代代表として各代から一人、「幹事会」に幹事として所属する。任期は設けない。」という項目から“年代代表として”という言葉削除。年代代表を定義していないため。
- 第2条のOB会の目的に関して会員OBから「より目的を明確化すべき」という意見があり、第2条〔目的〕に具体的な活動目的を盛り込むべきかどうか議論があったことを共有しておく。意見内容は配布資料（p3）のとおり。

5. 青学ラクロス部OB会のホームページについて

- 5月末日より青学ラクロス部OB(OG)会ホームページ
(<http://www.alumni-aogaku.jp/ivy078/>)を新規に開設した。これからはメールに加えホームページでも情報発信をしていく。

6. 自由討議

- OB総会出席者から議案に関して質疑応答を行った。代表的なものは以下のとおり。
 - 女子ラクロス部への支援は行われているのか。(梶原氏(4期))
⇒有志で支援を行っている。現状、体制としては整っていない。(中村氏)
 - 予算に関し、昨年度110万円、今期は170万円との提案だが、そもそも他の体育会OB会の相場感はどの程度なのか。(梶原氏)
⇒我々ラクロスOB会員は250名で、人数が異なり歴史ある他の体育会OB会と正確に比較することはできない。但しOB連合会に参加し聞いた感触では、青学内で比較すると250名で昨年度110万円でもまずまずと評価されている。想像ではあるが歴史があり、OB会員数が多いところで300~400万円程度の規模で運営しているようである。また、ラクロス界の他大学OB会の中には大学から3年間で450万円、一年間で150万円の支援を受けOB会員からの支援を加えると年400~500万円程度で運営している中規模大学があるので、大規模大学のラクロス部OB会は700万円程度で運営していると理解している。(温湯OB会長)
 - 今年度予算について目標予算額に達しなかった場合、活動計画はどうなるのか。(梶原氏)
⇒現役部員に対する援助を最優先とする。目標額未達の場合、コーチ活動費や就活支援制度などに充てる費用を削る。(加藤氏)
 - 体育会OBOG連合会への振興基金は男女折半が原則なので、OGへの負担もお願いしたい。(伊藤氏26期)
⇒滞納分であったため急ぎ男子が一旦立て替えた。今後、OGと協議していく。(中村氏)
 - 産業勉強会での費用の中に65千円と計上してあるが内容を教えてほしい。(湊

原氏 (26 期))

⇒年間 6 回を予定しており 11 千円/回。基本的な考え方は、使う前提の予算ではなく、使う可能性がある前提の予算としている。必ずかかる費用としては、印刷費用であり、場所代は、青山キャンパスを利用する想定をしているため、無償利用となるが、大学のテストシーズン等の利用の担保が無いいため、バックアップで会議室代もコスト認識している。なお、講師代の 10 千円については、実態としては過去 3 回については、OB 会への寄付いただき相殺処理 (コスト 0 円化) されている。(補足だが、必ずしも寄付する前提の費用ではなく謝礼代という位置付けとなる。)(江幡氏)

- 会費以外の収入のアイデアとして OB 向けのグッズ販売時に 1 割～2 割上乗せして販売するのはどうか。(熊坂氏 (5 期))

⇒現在、グッズ販売の管理等は現役部員委ねている。適宜、現役部員から OB の皆さまに対する情報発信にてグッズ販売の金額についてお伝えできればと思う。(加藤氏、勝氏 (現役主将))

⇒会費を増やすアイデアではないが、3 期東海林さんからは、福島県からの助成金で最大 30 万円を支援するアイデアがあると事前連絡があった。収入を増やすアイデアと節約して上手に使うアイデアの両面に注意を払いたい。(温湯 OB 会長)

- コーチ陣の自己負担をなくすこと、現役チームとの距離感を縮める努力、コミュニケーションを円滑にする努力をお願いしたい。外部からのコーチやトレーナーを招聘する費用に予算を割くのはどうか。(松延氏 (7 期))

⇒我々も同意である。コーチ陣の自己負担削減に優先的に予算を割くべきだと考えている。その為には収入を増やすことを先に解決すべきだと思うので短期的にやるべきことと中長期的やるべきことを並行して検討していきたい。(竹花氏)

- 会則 14 条にある OB 総会の決議方法に関し、参加できない OB 会員の意向も確認すべきではないか。(越智氏 (28 期))

⇒その通りだと思います。一般的に不参加の方には委任状を事前送付するのが一般的ですが、昨年度の OB 会則立案時に参加者を促すためにあえて参加者の 2/3 以上の賛成をもって決議とした。いずれ変えていきたい (温湯 OB 会長)

- 現役生からのお願いに関し遠慮はいらないので、現役生はどんどん OB 会に要望してほしい。(宮脇氏 (18 期))

⇒ボールの磨耗など切実な問題もあるので、ご助言をありがとうございます(勝氏)

- コーチの活動費の内訳を教えてください。(中川氏 (現役 4 年))

⇒基本的には全体のコーチ費を人数分で割る。交通費等出席状況によって変動

するものに関しては個々人の状況に応じて予算を配分する。(加藤氏)
⇒予算は一旦、幹事会の提案で決めて良いと思うが、年度内に予算を見直すプロセスを追加検討してほしい。(熊坂氏(5期))

- Bチームコーチの必要性を感じており、OBにも相談しているが、これについての現状・OB考え方を教えて頂きたい。(中川氏(現役4年))
⇒関口 HC とも相談し代替案は出しているもののベストな提案が出来ていない。

7. 決議

- 会則第14条に則り、議案について総会出席者の2/3以上の承認が得られたため議決。異議無く、了承。

8. 閉会の辞

○温湯 OB 会長から閉会の挨拶

- 現役部員が戦う相手はフィールドにいる他大学の選手だけではなく背後にいる他大学のOBOG9000人と戦っていることを再認識しておきたい。このことをぜひOBの皆さまには自分事として捉えていただきたい。自分が充てられる時間内に自分なら何ができるかを考えていただきたい。我々OB幹事会だけでできないことは体育会OB連合会や大学に対してリクエストしていく。幸運にも現在、青山学院大学は三木学長の指揮の下で昨年9月にスポーツ庁によるスポーツ振興8大学に認定され、堀田理事長から本日バッジを直接送付いただいたように11月には新経営宣言「Be the Difference」が発信され大学自体が未来にチャレンジしようとしているので、我々のやる気は大学に届きやすい環境と実感している。今は力を込めて現役部員を含めOB会が一丸となってチャレンジしていくべき時期だと考えている。

以上